

学校スポーツの未来を切り拓く

～SDGs活動をする意味・意義～

2021年2月20日(土)

筑波大学アスレチックデパートメント
副アスレチックディレクター
山田晋三



UNIVERSITY OF TSUKUBA

ATHLETIC DEPARTMENT



1973年栃木県生まれ

小学校時代は米国で過ごし、アメフトと出会う。
 関西学院中学部、関西学院高等部、関西学院大学卒業
 筑波大学大学院体育学専攻コーチング学卒業

関学大を日本一に導き、学生日本代表の主将も務め、社会人では2000年に日本選手権を制覇。
 その後、日本人として初めて北米プロリーグXFLに参戦、NFLタンパベイのトレーニングキャンプ参加。日本アメリカンフットボール協会の強化育成部。国際連盟の技術委員も務める。
 2010年よりIBM BigBlueのヘッドコーチとなり、日本代表チームのコーチ及びGMも務める。
 2018年4月より筑波大学アスレチックデパートメント(副アスレチックディレクター)

モデルは米国：スポーツは大学の一部



日本の大学には
ポテンシャルがある！
母校愛、ロイヤリティ
スポーツを愛する文化
箱根駅伝の盛り上がり！

「Education through Athletics」

-- 競技スポーツを通じた教育 --



Education through Athletics



例)プリンストン大学(IVYリーグ)

1:リーダーシップ

2:人前で話す能力

3:多様性の理解と受容

4:チームワークと他人との協働

5:バランス

6:自分の限界・現在のレベルの突破

7:成功に安住しない

継続的な学習、成長、前進

8:指導する仕方、指導される仕方

9:失敗の克服

「人材育成マインド:師魂理才」

「師魂理才」とは

親や先生のように人に接する心や人々をまとめる力を持ち、
かつ合理的な問題解決の才能を持つことを意味しています。

本学らしいコンセプトをグローバル社会に発生している課題と合わせて考え、

本学のミッションは、師魂理才をもって、

地球規模課題の解決と未来地球社会の創造に向けた知を創出するとともに、
それを牽引するグローバル人材を育成することです。

(永田学長)

学校スポーツ”を通じて地域を活性化、豊かな社会の実現を目指す



筑波大学OWLSスポーツ教室

「つくばこどもの青い羽根学習会」（子どもの学習支援・生活支援事業）に参加する子供たちを対象にしたスポーツ教室を開催。

▶ 学生アスリートにとっても社会と繋がり成長の機会



自宅学習向け体育ムービー

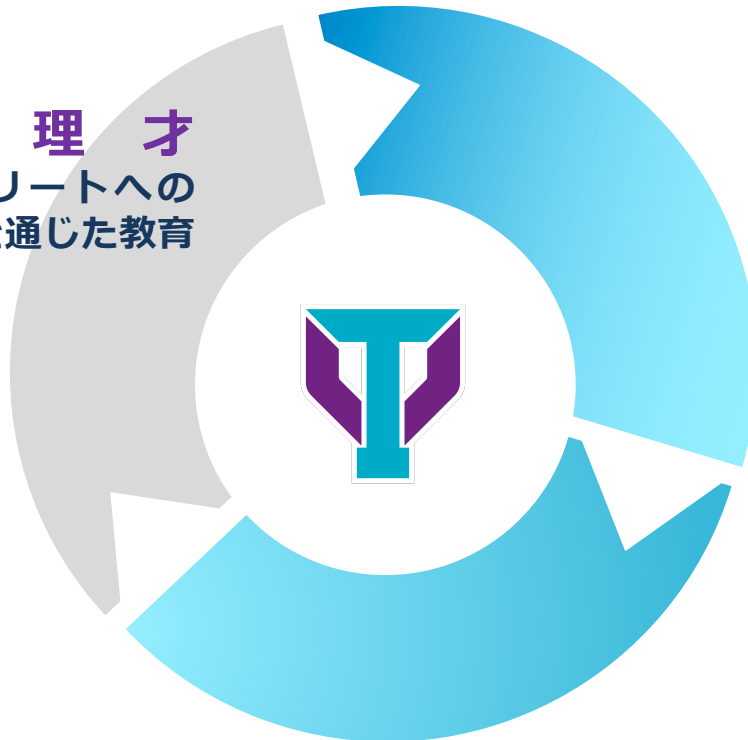
大学が持つスポーツの資産を活かし、次世代を担う小・中学生向けの社会体育の普及と実践の促進を目的に「自宅学習向け体育ムービー」を配信。（協力: 関彰商事株式会社）





「部活動」の危機！ 筑波大学スポーツのリソースを学校スポーツ界に還元

師 魂 理 才
学生アスリートへの
スポーツを通じた教育



ファンの創生と地域との共有体験
地域社会の活性化と豊かな社会の実現

部活動の課題解決へ パートナーシップによるアプローチ



JTB 茨城南支店
両者の特性を生かした
スポーツ振興、人材育成、地域活性
の実現に向けての連携



Softbank (CSR)
デジタルを用いた繋がり創造
1. eコーチング
2. デジタルコンテンツ

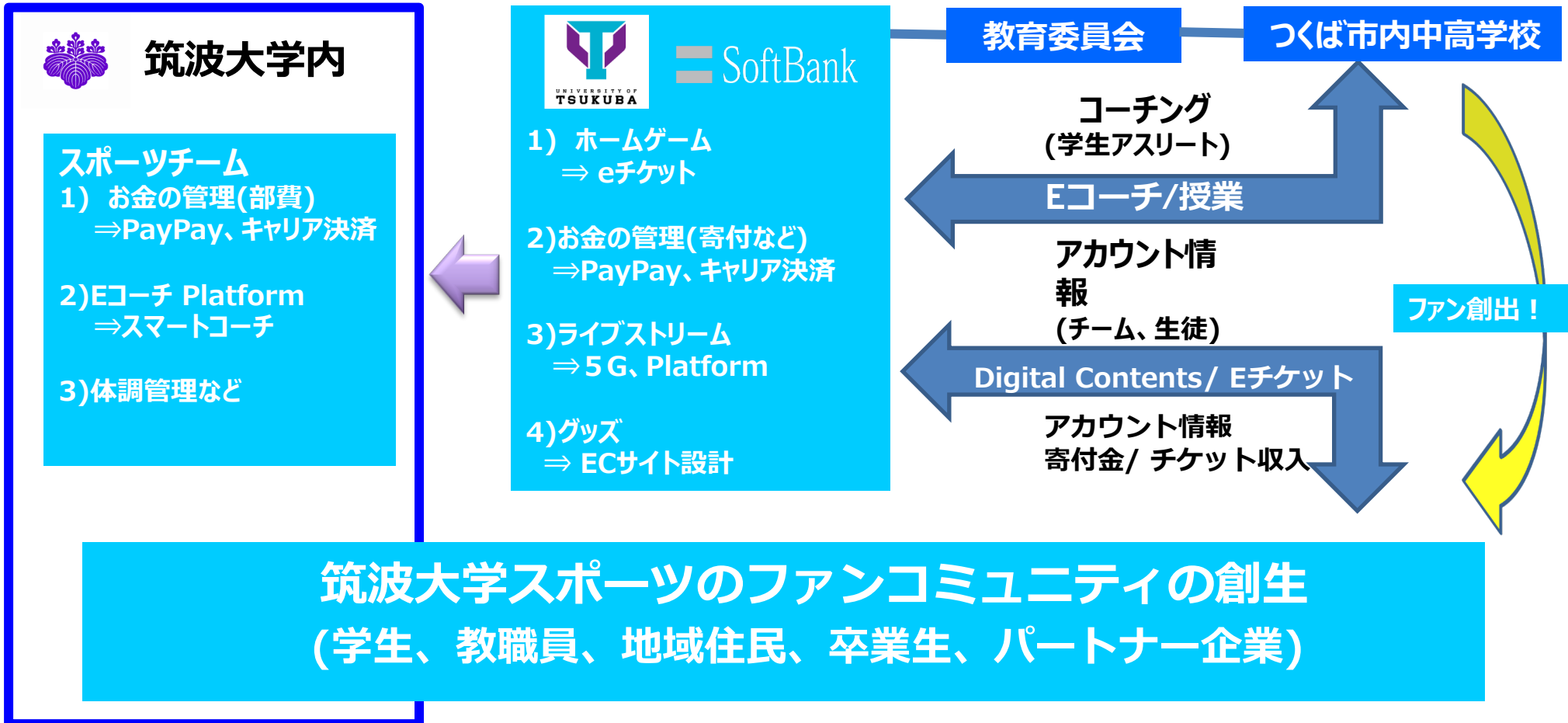
- 1: 新たな時代に求められる人材育成
- 2: 学校スポーツの課題解決へ
- 3: ファンの創生と地域一体感の醸成

事例；ハーバード大学

30,000人

学生数：2万2千人 / 米国ケンブリッジ市民：17万人
（筑波大：1万6千人 / つくば市民：22万人）

スポーツを核に、デジタルを活用し「繋がり創出」によるファン創生モデルの構築



筑波大学スポーツのファンコミュニティの創生 (学生、職員、地域住民、卒業生、パートナー企業)

課題

- 卒業した後のOBとの繋がりが皆無。寄付のプラットフォームやデータベースがない。
- 筑波大学のスポーツ資産を生かせていない。
⇒ 地域の中高校生への部活動支援、地元ファン創出
- つくばアリーナ事業※における大学スポーツ観戦
⇒ eチケット、ライブストリーム等
※アリーナは将来構想



→ ソフトバンクと連携し、DXを活用してビジョン達成を加速させる。

DX with
SoftBank